県電気工事業工組青年部協議会

時代の変化柔軟に

18年度県電気工事業工業組合青年部協議会（大野秀幸会長）が13日、南さつま市の松屋旅館で開かれ、新年度活動予定などについて話し合った。

冒頭、大野会長の挨拶のあと、来賓で県電気工事業工業組合の中島博夫理事長が「17年度は、皆さんの独居老人宅への訪問や車いすの寄贈など、活発なボランティア活動が社会的に評価され県から感謝状を授かった。業界のイメージアップに大きく貢献していただいたことを誇りに思う。業界ならびに組織の反映のためにお力添えをいただきたい」と祝辞を寄せた。

続いて、大野会長を議長に、17年度活動状況および決算報告のほか、①全国各県電気工事業工業組合青年部会議・協議会出席（開催地・富山市）②第13回県下一斉高齢者住宅電気設備無料点検（8月から11月に各支部で実施）③チャリティー益金による車いす贈呈―などを柱とする18年度活動予定および予算等を満場一致で承認した。

最後に「これからの電気工事業について」と題して行われた親組合との意見交換会では、中島理事長が「われわれは恐竜の道を選ばず、鯨の道を選んでいかねばならない」と、今までの既成概念にとらわれず時代の変化に合わせた柔軟な対応が必要であることを例えながら、「提案型技術営業の有効性」を唱えると、それを受けた各支部代表らから「タイアップローンなどを有効に活用した割賦販売を」、「専門営業マンの早期育成が重要」など活発な議論が交わされた。

提案型技術営業の有効性を語る中島理事長＝南さつま市の松屋旅館で

建設システムがセミナー

電子納品を指南　パソコンで模擬体験

㈱建設システム南九州営業所（高橋尚也所長）

よる「電子納品体験実習セミナー」において、分かりやすい解説と1社1台によるパソコンを駆使した模擬練習で参加者の好評を博し、受講者は間近に迫った電子納品への取り組み方などについて知識を深めた。

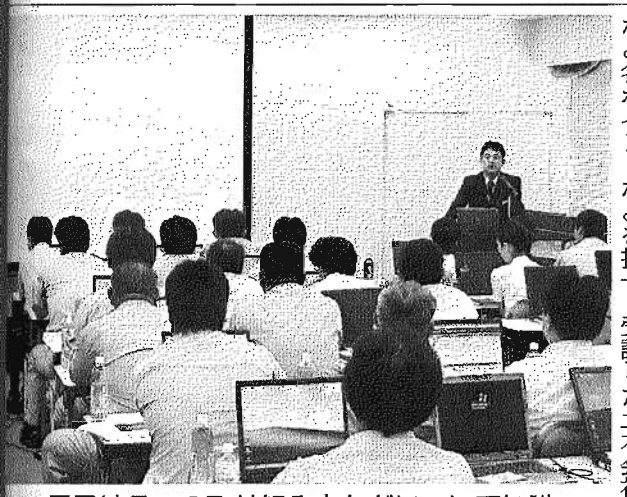
同セミナーは、10日から12日の3日間にわたって志布志市、霧島市、鹿児島市の3会場で行われ、延べ120人を超える参加者が受講。工事完成図書の電子納品要領をはじめ、実際の電子納品における問題点や注意事項などを分かりやすく解説。

また、写真管理・電子納テムの体験実習では、さまざまな問題点・注意点など各ポイントなどを押さえながら手ほどきを指南。

受講した土木会社の担当者は「実際にパソコンを使って体験できて大変参考になった。今後の業務に生かしたい」と抱負を語った。

講師の富永孝太氏は「電子納品はそれほど難しくない。書類保存の仕方や禁則文字など決まりごとさえ守れば問題ない」と話す。

なお、本格導入が迫っている電子納品は、県においては18年度にガイドラインが制定（秋頃）され、実証実験までを予定。19年度以降に試行、一部本運用を経て順次適用範囲を拡大し、本運用へと展開されていく予定であ


電子納品への取り組み方などについて知識を深めたセミナー＝鹿児島市のアイムビルで

荒田会が奉仕作業

「若き薩摩の群像」を清掃

荒田会（会長・今村満彦㈱今村清建設社長、11社）は14日、鹿児島市の鹿児島中央駅東口広場で恒例となった「若き薩摩の群像」の清掃活動を行った。

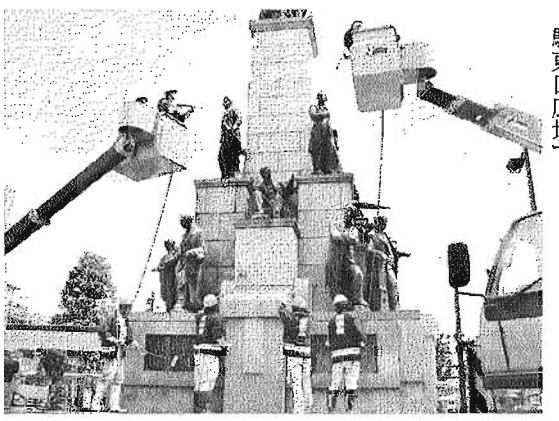
毎年実施するこのボランティアは今年で11回目。約30人の参加者は、そろいの法被を身にまとい、群像や周辺の路面清掃等に約2時間汗を流した。

群像の清掃では、高所作業車2台を使用し、高圧洗浄機で手際よく作業。台座もデッキブラシを使って丁寧に磨き上げた。人通りが多い場所とあって、歩行者の通行等にも配慮しながら作業を進めた。

新幹線開業後、鹿児島市の表玄関としてにぎわいを見せる中央駅周辺。今村会長は、「観光客など訪れた人々に明るい印象を与えたい。市民に愛されてこその業界。今後も一丸となって環境美化に努めていきたい」と話した。

参加業者は次の通り。

㈲飯星工業　㈱今村清建設　㈱大城　郷栄工業㈱　㈱久保忠建設　㈲西建設　渕之上建設㈲　㈲法正建設　㈱森薗建設㈲柳生建設　㈲ムサシ建設工業


高所作業車も使用し、清掃に取り組む参加者＝鹿児島市の鹿児島中央駅東口広場で

奄美大島造園組合が奉仕作業

子供たちと記念植樹

奄美大島造園組合（瀧源廣理事会長）はこのほど、奄美市の県奄美パーク内の田中一村美術館玄関でソテツ」が同美術館に寄託され、6月22日から一般公開されるのを記念して子供たちに託された植栽作業を手伝ったもので、ボランティアで実施した。この日組合員らは、子供たちが作業をやりやすいように事前に穴掘りやクワズイモの植え込みを済ませ、あとは子供たちが土を被せ水をかけるだけの前準備をしていた。

子供たちと作業をともにした組合員らは「木が柔らかいから、スコップで傷をつけないでね」「丈夫に育てばいいね」などと声を掛けながら優しく指導した。

今回の奉仕作業について瀧理事会長は「児童らが記念植樹をすると聞いて、われわれに何かできないかーと、一村会や奄美パーク側に申し出たところ。子供たちにこのイベントを通して木を植える楽しさや大変さを学んでもらおうーということになった。今後もボランテイア活動を含め、社会貢献に積極的に取り組みたい」と抱負を語った。

会員とともに植え付けを行う児童

川内青年会議所主催　市民がギネスに挑戦

竹馬で世界記録達成

ギネス記録に挑戦「竹馬で100m歩行に何人成功できるか！」（川内青年会議所主催）が8日、薩摩川内市の総合グラウンドであり、薩摩川内市の植村企業グループや㈱川北電工、㈱薩摩水道、㈱南日本運輸建設等の企業・団体から市民828人が、カナダがもつ世界記録544人（ギネスブック登録記録）に挑戦した。

竹馬の規格は足場30cm、長さ90cm以上。事前に計測された100mを一斉に歩き、途中足をついたら失格。スピードを競うのではなく、足をつかずに何人歩けるかを競うというもの。挑戦回数は3回。

「出るからには相当練習しましたよ」（西日本興産㈱・田辺屋久恵さん）。確かに各社の事務所玄関先には竹馬が並んでいたから、相応の練習を積んでの参加のよう。

練習の甲斐（かい）があって第1回目の挑戦で614人が成功。難なく544人のカナダ記録を突破、薩摩川内市民が世界記録を樹立した瞬間だ。第2回目はこの市民記録との挑戦だが、戦意を喪失したのか2回目は588人、3回目は582人にとどまった。ともあれ世界への挑戦はこんな身近なところにあるとは。

記録に挑戦する植村企業グループの参加者＝薩摩川内市総合グラウンドで

お手軽で便利な購読料のお支払いは
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ